

事務事業実績測定調査

事務事業名称	ひらかた子ども発達支援センター施設管理事業												
測定年度	2020(R2)年度				部	子ども未来部				課	ひらかた子ども発達支援センター		
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2		R3		R4					
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち											
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち											
	実行計画名	15-2.保育環境等の充実											

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業	
事業期間	1974(S49)年度		年度	~	年度まで	
根拠法令等	児童福祉法					
関係補助金名称					サンセット	~
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	障害や発達上支援の必要がある児				
	サブターゲット	上記児の保護者				
	ターゲットが抱える課題	児の障害や特性に応じて、保護者が独自に専門的な保育・療育を行うことが困難である。				
	ターゲットが抱える課題					
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	安全で円滑な保育・療育が行える環境を維持し、障害や発達上支援の必要がある児に対して、障害や発達に応じた専門的な保育・療育を提供できている状態。また、保護者や家族に対しては、家庭や身近な地域での療育環境を向上させるために必要な研修、情報提供等を行うことが出来ている状態。					
事業概要	<p>開設年:平成31年・敷地面積:2297.76㎡・建物面積:3475.61㎡・定員110名(児童発達支援)</p> <p>市立ひらかた子ども発達支援センターは、児童福祉法第七条第一項に基づく児童発達支援センターであり、通所児に対しては、児童単独もしくは親子通所により、日々の生活を基盤とした個別・集団的な保育・療育を実施している。通所支援を利用していないが支援を必要とする親子に対しては、遊びや集団の場を通じて経験を広げ、成長を促すことができるよう「地域子育て支援事業」を実施している。また、医師の指示の下、理学療法、作業療法、言語聴覚療法を用いて、個々の状況に応じたリハビリテーションを実施している。</p> <p>その他、地域に対する支援機能として、障害児相談支援、保育所等訪問支援及び居宅訪問型児童発達支援を実施している。</p> <p>なお、通所児のバス送迎、建物の警備、大規模な清掃など専門性の高い業務については、外部委託により実施することで、事業運営の効率化を図っている。</p>					

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)	
	安全で円滑な保育・療育が行える環境を維持し、障害や発達上支援の必要がある児に対して、障害や発達に応じた専門的な保育・療育を提供できている。	適切な維持管理、運営により、市民が安心して施設を利用できる。	ひらかた子ども発達支援センター施設を適切に維持管理、および運営を行う。	
指標設定	指標説明	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)
	利用満足度 【算出式:保護者評価における満足度を図る質問に「はい」と回答した人数/回答数×100】	通所延べ利用者数	開所日数	
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
	指標数値	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5
	目標(見込み)	80 80 80 80	13,134 13,134 13,134 13,134	225 225 225 225
	実績	81	10,365	215
達成度	101%	79%	96%	
分析	コロナ禍においても可能な限り登所機会を保障したこと、保育ICTシステム導入による利便性向上によって、利用者の満足度向上の目標を達成することができた。	新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休所等により、利用者数は見込みを下回った。	新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休所等により、開所日数は見込みを下回った。	

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	47.32
任期付職員	13.25
会計年度任用職員	8.82
特別職非常勤	8.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人員費	正職員、再任用、任期付	164,029	478,682	421,242	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	16,775	25,328	34,394	
		特別職非常勤	—	—	5,463	
		附属機関委員	—	—	0	
	人員費計	180,804	504,010	461,099		
	物件費計	33,335	63,101	52,409	56,680	92%
	歳出計	214,139	567,111	513,508		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	
	府支出金	86,798	120,371	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	3,704	4,729	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	101	2,689	115	156	
	歳入計	90,603	127,789	115	156	
	一般財源	123,536	439,322	52,294	56,524	

5. 総括的分析

総括的分析	新型コロナウイルス感染症対策に伴う臨時休所等により、開所日数や延べ利用者数が低調となった。しかし、コロナ禍においても感染防止の取り組みによって可能な限り登所機会を保障することにより、必要なサービスを提供することができた。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、児童の障害や特性に応じて、きめ細かな専門的保育・療育を行う。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	通所交通費助成金事業											
測定年度	2020(R2)年度			部	子ども未来部				課	ひらかた子ども発達支援センター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4				
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち										
	施策目標	15.子どもたちが健やかに育つことができるまち										
	実行計画名											

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	不明		年度	~	年度まで
根拠法令等	通園児童療育実施要項(肢体不自由施設の通園児童に対する療育について。昭和38年6月11日厚生省発児第122号)				
関係補助金名称					サンセット
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	障害や発達上支援の必要がある肢体不自由児			
	サブターゲット	上記児の保護者			
	ターゲットが抱える課題	保護者が児の障害・発育の程度にあった通所手段(配車)を確保することが困難な場合がある。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿(課題が解決した状態)	個々の事情に応じた援助の必要な肢体不自由児及び保護者の通所に対して、障害・発育の程度にあった通所手段(配車)の確保を行い、通所にかかる身体的な負担を軽減できている状態。				
事業概要	枚方市福祉移送サービス共同配車事業を活用し、通所児等を自宅から市立ひらかた子ども発達支援センターまで福祉タクシーにより送迎する方法と、通所児が公共交通機関を利用した際にかかる交通費を補助する方法により実施している。また、民有地を借り上げのうえ駐車場を整備することにより、利用者の福祉車両の駐車スペースを確保している。				

2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム(活動効果)				アウトプット(活動結果)				インプット(活動)			
ロジックモデル		個々の事情に応じた援助の必要な肢体不自由児及び保護者の通所にかかる身体的な負担を軽減できている。				障害・発育の程度にあった通所手段(配車)の確保を行う。				通所児等が自宅から市立ひらかた子ども発達支援センターまで福祉タクシーや公共交通機関を利用することに関して、適切に助成する。			
指標設定	指標説明	利用者における「身体的な負担が軽減されている」と感じている割合				年間利用回数				配車依頼に対する実施割合			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標(見込み)	80	80	80	80	2,370	2,370	2,370	2,370	100	100	100	100
	実績	89				1,791				100			
	達成度	111%				76%				100%			
分析	コロナ禍においても可能な限り配車依頼に対応したことによって、利用者の負担軽減の目標を達成することができた。				新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休所等により、年間利用回数は見込みを下回った。				配車を希望する利用者には漏れなく対応することができた。				

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.70
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	795	5,612	5,583		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	795	5,612	5,583		
	物件費計	5,971	8,162	6,733	7,768	87%	
歳出計		6,766	13,774	12,316			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	0	0	0	0		
一般財源		6,766	13,774	6,733	7,768		

5. 総括的分析

総括的分析	新型コロナウイルス感染症対策に伴う臨時休所等により、年間利用回数は低調となったが、感染防止に留意して配車することで利用者の負担軽減につながった。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	現状の福祉移送サービスを継続し、肢体不自由児の通所に係る負担軽減を行う。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	保育所・通所施設巡回相談業務												
測定年度	2020(R2)年度				部	子ども未来部				課	ひらかた子ども発達支援センター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち										
	施策目標		15.子どもたちが健やかに育つことができるまち										
	実行計画名												

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業	
事業期間	不明		年度	~	年度まで	
根拠法令等	決裁					
関係補助金名称					サンセット	~
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	障害や発達上支援の必要がある児				
	サブターゲット	上記児の保護者				
	ターゲットが抱える課題	障害や発達上支援の必要がある児の保育内容づくりやクラス集団の中での子ども同士の育ちあいの関係づくりについて、専門的な診断や助言等が必要である。				
	ターゲットが抱える課題					
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	障害のある子どもや配慮の必要な子どもより良い発達成長を促している状態。					
事業概要	保育所等に在籍している障害児保育制度利用児童、制度利用以外の相談があった児童の発達診断、発達相談、行動観察を行い、併せて保護者との面談、保育士への保育の助言等を行う。					

2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル		障害のある子どもや配慮の必要な子どもより良い発達成長を促している。				各相談に対し、適切な助言等を行う。				障害や発達上支援の必要がある児及びその保護者からの相談を受ける。			
指標設定	指標説明	相談者の利用満足度 【算出式:保護者評価における満足度を図る質問に「はい」と回答した人数/回答数×100】				年間延べ相談数				相談受付日数			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	単位	%			単位	回			単位	日		
		目 標 (見込み)	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4
	実績	80	80	80	80	1,020	1,020	1,020	1,020	225	225	225	225
	達成度	99%				92%				96%			
分析	コロナ禍においても可能な限り巡回・保育相談、発達検査を実施したことによって、相談者の利用満足度向上の目標をほぼ達成することができた。				新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休所等により、年間延べ相談数は見込みを下回った。				新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休所等により、相談受付日数は見込みを下回った。				

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	3.70
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.83
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	23,853	33,671	29,508		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	4,475	3,350	3,237		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
	人件費計	28,328	37,021	32,745			
	物件費計	360	375	369	438	84%	
	歳出計	28,688	37,396	33,114			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	4,361	4,859	341	390		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	4,361	4,859	341	390		
	一般財源	24,327	32,537	28	48		

5. 総括的分析

総括的分析	新型コロナウイルス感染症対策に伴う臨時休所等により、相談受付日数や延べ年間延べ相談数が低調となった。しかし、コロナ禍においても感染防止の取り組みによって可能な限り巡回・保育相談、発達検査の機会を保障することができた。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	現状の巡回・保育相談を継続し、障害のある子どもや配慮の必要な子供のより良い発達成長を促す。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	ひらかた子ども発達支援センター運営事務											
測定年度	2020(R2)年度			部	子ども未来部				課	ひらかた子ども発達支援センター		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4				
総合計画体系	基本目標	9.施策体系外										
	施策目標	99.施策体系外										
	実行計画名											

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	庶務的事務	区分	庶務的内部管理事務							
事業期間	不明			年度	～年度まで							
根拠法令等	決裁											
関係補助金名称	サンセット											
関係附属機関名称												
事業対象	メインターゲット	ひらかた子ども発達支援センターの所属職員										
	サブターゲット											
	ターゲットが抱える課題	課の運営を円滑に図る必要がある										
	ターゲットが抱える課題											
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	課の運営が円滑に行われている											
事業概要	センターの予算・決算に関する事務、職員の給与・休暇・人事・服務に関する事務、文書の收受・発送・管理事務等											

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)					アウトプット (活動結果)					インプット (活動)					
指標設定	指標説明															
	指標種類	単位					単位					単位				
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5			
		目標 (見込み)														
	実績															
	達成度															
	分析															

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.70
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	—	5,612	5,583	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	—	0	0	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	0	
		人件費計	—	5,612	5,583	
	物件費計	—	8,767	9,736	11,228	87%
	歳出計	—	14,379	15,319		
歳入	国庫支出金	—	0	0	0	
	府支出金	—	0	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	—	0	0	0	
	市債	—	0	0	0	
	その他	—	0	0	0	
	歳入計	—	0	0	0	
	一般財源	—	14,379	9,736	11,228	

5. 総括的分析

総括的分析	必要な事務処理など、センターの運営を行った。
-------	------------------------

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続きセンターの円滑な運営を行う。